



国際化の最前線から



オリパラ・ホストタウンの取り組みを通じて ～モザンビークとのつながりと広がり～

(特非) えひめグローバルネットワーク 代表理事 竹内 よし子

えひめグローバルネットワークは、1998年に発足し2005年に法人化した国際・環境・教育分野の横断的なネットワークづくりによる持続可能な社会を目指す市民活動団体である。最も特徴的な活動となるモザンビークとの連携は20年を超え、小学生を含む市民から大統領までつながる超グローバルネットワークへと広がっており、ここでは、新型コロナウイルス感染症との戦いのなか、2021年に延期して行われた「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」を機に、新たな市民層への広がりが生まれていることを紹介したい。

2019年7月、愛媛県・松山市・伊予市・新居浜市がモザンビークのホストタウンとなる調印式が行われた。2021年、オンラインで選手団と交流する松山市内の小学校3校に、愛媛大学附属高校・モザンビーク班第1期生が積極的に関わった。小学生は、夏休み中にモザンビーク・スポーツ応援募金を60カ所以上で実施し、募金は陸上選手の応援と「ポッチャ」の道具の購入などに活用された。伊予市や新居浜市の小・中学校からは全校生徒の心温まる応援が届けられ、「モザンビークSDGs勉強会」も立ち上がり「モザンビークノート」も活用された。自治体・学校・NPO・市民の連携で輪が広がった好例になったのではないと思われる。モザンビーク選手たちからは、今も動画やメッセージが愛媛に届く。えひめグローバルネットワークでは、地域に根差す国際交流の輪の広がりや深まりは、これまでの市民活動、大学・教育機関・自治体・NPOなどとの連携の成果であると実感するとともに、ぜひ、地域ぐるみで次の世代へとつないでいきたいと願っている。

モザンビークは、過去20年以上も世界最貧国の国であり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加できた種目・人数も少ない。そして期待され

ていた唯一のメダリストも残念ながらメダルを獲得することはできなかった。しかし、選手たちは、少なくとも、愛媛とモザンビークの友好・交流の歴史を刻んだメダルを獲得している。心の中で輝き続け、パリへの競技で生かしてもらえたらと思う。



2019年ホストタウン調印式



モザンビーク選手団との交流会

プロフィール

竹内 よし子 (たけうち よしこ)
(特非) えひめグローバルネットワーク代表理事。
企業・研究機関などの勤務を経てNPOを設立し、さまざまな「つながり」と「ESD(持続可能な開発のための教育)」を大切にしながら市民主体の持続可能な社会づくりに取り組んでいる。2021年度外務省NGO相談員、環境省四国EPO・四国ESDセンター統括、内閣府地域活性化伝道師、愛媛県環境マイスターなどを兼務。